

# 未来への遺産

## 和歌山県

### 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

平成十六年七月七日、三重・奈良・和歌山の三県にまたがる「紀伊山地の霊場と参詣道」が、日本で十二番目のユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されました。この「紀伊山地の霊場と参詣道」は、「熊野三山」「高野山」「吉野・大峯」の三つの霊場と、そこに至る「熊野参詣道」「高野山町石道」「大峯奥駈道」などの参詣道、及びそれらを取り巻く「文化的景観」が主役となっています。現在、世界遺産は八百七十八カ所ありますが、信仰の道として登録されているものは、ほかに



高野山 根本大塔（高野町）



熊野川舟下り（新宮市）

スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼路だけで、世界に二例しかない貴重な資産です。和歌山県が位置する紀伊山地は太平洋に突き出た紀伊半島の大部分を占めており、年間三千㎞を超える豊かな雨が鬱蒼とした森林を育む地域で、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域として考えられていました。

これらの山岳霊場や参詣道、また紀伊山地の山、森、川、滝、温泉などは、今日まで良好な状態で維持され、連続と継承されており、日本で唯一、世界でも類を見ない資産として高く評価されています。

約千二百年前、弘法大師空海により開かれた真言密教の聖地高野山や黄泉還りの地として信



熊野古道 大門坂（那智勝浦町）

仰を集めてきた熊野は今も多くの参拝者で賑わい、訪れた人の心を癒し続けています。

本年は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され五周年を迎えます。

これを記念して、東京、大阪、名古屋等でのシンポジウムの開催を始め、熊野古道ではウォークイベントも実施されます。「一万人の参詣道環境保全活動」にも取り組みます（「都道府県だより」の和歌山県ページ参照）。また、世界遺産の保全・活用拠点として熊野本宮館もオープンします。

日本人の精神的なふるさととも言える「高野山・熊野三山」、五周年を機に、その本質的価値を再認識し、次世代に良好な状態で資産を継承すると同時に、更に大勢の方々を訪れていただけるよう、その魅力を国内外にアピールしていきます。

お問い合わせ

和歌山県商工観光労働部観光局観光振興課  
TEL 〇七三―四四一―二七七五